

東京歯科大学同窓会会報

東京 都千田神
三 島 町 区 田
三 行 所 7
東京 歯科大学同窓会
東京 兼 人 加 倉 三
三 集 行 藤 加 倉 三
三 集 行 藤 加 倉 三
電話九段 33/8446 (代)

来る二月二十三日(日)

第七十二回例会開催

御誘い合わせの上

御来会をお待ち致します

来る、三月二十六日(日)午前十時より、母校第一講義室において、本会第七十回例会を開催致します。

今回は、先づ福島学長より「大学院設置について」と題する講演を伺い、続いて、去る十二月十四日三ヶ月半に亘る欧米視察旅行から帰国された、母校病院長海上喜久男教授より「欧米視察談」を伺い午前の講演を終り、正午より一時三十分迄一応講演は休憩とし、この間、大学院設立を目標に、内容外観共に一大飛躍

を遂げた学内を参観して頂くこととした。

午後は一時三十分より講演を再開先づ日園専務理事として、また中央医療保健協議会委員としてわが歯科界のため縦横の活躍をされている鹿島俊雄博士より「社会保健の現況とその対策」と云う演題の下に、新状況下の健保問題に関し、意義深い指針が与えられることと思う。これに続いて、厚生技官、水野銈太郎先生より、実際に則した「社会保健を回

東京歯科大学学会例会御案内

同窓会例会の前日の二月二十二日に東京歯科大学学会第四百四十四回例会を開催します。各位の御参加を期待しております。

会長 福島 秀 策

同窓会会員各位殿

りて」と題する講演があり、社会保険と云うテーマに関し、来会各位に充分堪能して頂ける内容であることを確信している。水道橋畔に新偉容を誇る母校の現況を御一観、同窓各位お誘い合わせの上多数御来会下さることを切望する次第である。なお恒例により歯科器械材料等の展示即売会を開催する予定である。例会前日に東京歯科大学学会開催来る二月二十三日(日)の本会第七十二回の前日、すなわち二十二日(土)に午後一時より、母校第一講義室において、東京歯科大学学会が開催される。

本学会は昨年の会報に詳細に亘って説明されているが、二月、七月に本会の例会前日に学会の例会が開催され、十一月の本会総会前日に学会総会が開催されることになっている。会員各位が多数入会され、新しい歯科医学の進展に直接参画されんことを切望する。

緊急支部長並びに在京評議員会開催二月二十三日の本会第七十二回例会終了後午後四時より引き続き全国支部長並びに在京評議員会を緊急に開催することに相成りました。支部長並びに在京評議員の各位には御多忙中恐縮乍ら御出席賜わる様御願ひ致します。

新年名刺交換会戦後最大の盛会去る一月一日、午前十一時より、母校講堂において、吉例の新年名刺交換会が開催された。堂に溢れる参会者を迎え、福島学長、西村会頭の年頭の挨拶に続き、北村宗一顧問の鶏鳴、白川幹事長の謡曲等が披露され、大学院建設を目前にした新年の集いが盛大に催された。今年は戦後最大の参会者を迎え、殊に若い同窓の多数の来会が目をひいた。

第七十二回例会開催通知

本年度の二月例会を左記次第により開催致します。多数会員各位の御来会をお待ち致しております。

日時 昭和三十三年二月二十三日(日) 午前十時

午後四時

場所 東京神田水道橋母校

次 第

○午前十時—十時三十分

「大学院設置について」 学長 福島 秀策氏

○午前十時三十分—正午

「欧米視察談」 母校教授 病院長 溝上喜久男氏

○正午—午後一時三十分 学内参観

○午後一時三十分—三時

「社会保険の現況とその対策」 中央医療保健協議会委員 鹿島 俊雄氏

日本歯科医師会専務理事

○午後三時—四時

「社会保険を廻りて」 厚生技官 水野銈太郎氏

◎恒例により当日会場において歯科器材の陳列即売を行います。

昭和三十三年二月十日

会員各位

会頭 西村 豊治

在京・近県支部長会開催さる

去る一月十五日、(成人の日)午後三時より文京区観光園において、在京近県支部長会が開催された。

榎本前会頭以下顧問四氏、参興十四氏、支部長二十六氏、特に出席願った関係者五氏、を招き、本会からは

西村会頭、井上副会頭以下役員十五名参集し、白川幹事長司会の下に、西村会頭より「寒中冷雨を衝いての多数の御参会に感謝する、御支援を願う」との挨拶があり続いて福島学

長より大学院設立に全力を尽している。二月中旬審査を受ける所に至ったが仕事はこれからであり、この上

共に同窓各位の御支援を願う。前学長奥村先生の御容体も御良好と云う訳には行かぬが、今直ちにどうと云

う心配はない、この点御安心を乞う榎本先生には永年の御苦勞の上御退任になったが、御事情止むを得ない

と思う。西村会頭の御出馬を心強く思っている。本会は母校にとり車の両輪、鳥の両翼と思う、今後共宜しく御願います」との挨拶があり懇談会に移った。

榎本前会頭を名誉会頭に
座長に杉山聞多氏(千葉)推薦され、役員紹介の後、山本勝利氏(神奈川)より緊急動議として、榎本前会頭に對し、「先生の人格識見は我々本会々員の誇りである、先生の榮譽を称えて名誉会頭の称号を差し上げる様県總會で決議したとの発言あり、満場の拍手を呼び起した。続いて沢口源作氏(台東浅草)の発言

あり、大塚豊美氏(品川)より同様賛成の発言と共に、会則上より十一月の總會に会則変更を行い名誉会頭に推薦すべしとの発言、北村顧問より同様様の発言あり、座長より新役員に善処方の希望が述べられた。

続いて、井上副会長より本会運営の大綱に関する説明、一丸となって母校の為に力をいたしたい旨の挨拶があり、沢口、古川(城東)赤塚(渋谷)久木留(荒川)各支部長より活潑な発言あり、中村、白川、大井加藤各幹部より分担事項に関する説明の上、永田(大森)大塚(品川)北村(母校)各支部長よりそれぞれ意見、希望が述べられた。

各支部長の発言の内容は、何れも建設的なものであり、主としてかかる懇談会の機会を頻りに、会費持ち寄りでも行いたい、母校と支部とが講師派遣等に対し緊密に連絡す可きである等の意見が多かった。最後に、鹿島幹事が、日歯専務理事の立場から現下の社保問題を中心に挨拶があつて宴会に移り八時散会した。

都内近県支部長出席者
(敬称略順不同)
顧問
榎本美彦、北村宗一、福島秀策、若葉清
参与
井上久男、五十嵐庭治、市川鶴男、入江義次、上田貞三、大塚豊美、河村弘、高北義雄、鈴木録二、田丸将士、中村恒吉、堀真一、村越一

雄、渡辺昌夫
役員
西村豊治、井上真、鹿島俊雄、加藤倉三、木村哲男、北村宗久、中村正夫、大井清、大橋忠、重浦靖治、白川亨、田村八郎、鶴養弘、中村實蔵、沢口源作
支部長
北村勝衛、渡辺一二、上原栄、阿部虎五郎、佐々木敏夫、田中龍雄、秋山喜代道、関根卓、小坂力、藤江義三、永田令蔵、飯島和夫、両角彦一、赤塚康太郎、谷園輝、加藤正衛、大多和彦、林好、久木留広、景山博水、矢野貞雄、古川忠夫、杉山開多、中村久吉、原徳人、山本勝利
関係者
大久保保正、吉井三郎、成富治男、長谷川慶蔵、宮本一郎

会頭各地に出張
西村会頭は就任以来各地に招かれ福島学長と共に出張された。両先生より同窓各位の絶大なる御世話に預り深謝されている。

合同同窓会、一二、一三、近畿六県支部同窓会、一二、一三、日本橋支部同窓会、一二、一二、京北同窓会、一二、一五、宮城県支部会、三三、一五、近県及都内支部長顧問、参与、役員懇談会、一、一九、中野支部同窓会、一、一九、品川支部同窓会、

御挨拶
私共各地参上の節は公私共に御款待を賜わり厚く御礼申し上げます。
学長 福島 秀策
会頭 西村 豊治

見舞金贈呈者(火災)
(北海道) 高橋常保、(秋田県) 小林昭雄、(秋田県) 小林定義、(栃木県) 長竹喜三郎、(富山県) 米田祐弘、(富山県) 奥川龍治、(新宿区) 矢内良徳、(秋田県) 小林作雄、(秋田県) 本間要作、(秋田県) 神成一郎、(千葉県) 高梨卯平、(富山県) 赤田三三郎、(新宿区) 矢内良俊、五、昭和三十一年二月二十四日母校内において本年度卒業生の人会歓迎会を開催した。

六、昭和三十一年三月二十五日母校卒業証書授与式に際して在学中業に精勵し臨実習成績優秀なる北村晴彦、宇佐美雅弘、杉村孝、松本功、四君に同窓会賞(賞状及び賞牌)を母校に寄託して授与した。

七、昭和三十一年十一月三日第六拾二回總會において会員鶴養弘君の論文變化ソーダーおよび酸性ソーダー塗布による珪酸質表面の變化に関する電子顕微鏡的研究と題する論文は歯科医学の進歩に寄与すること特に大なるものあるを認め血脇賞(賞状、賞牌、賞金)を授与し其功績を表彰した。

八、本年度内において会報六回(自第四十六号至第五十一号)発行し全会員に配布した。

九、例会、總會、開催毎に歯科器械材料等の展示、即売会を開催した。

第六十三回 総会 会議事項 (その二)

昭和三十一年度事業報告 (前号より続く)

弔慰金贈呈者

(北海道) 池田政勝、(山形県) 東海林耕祐、(茨城県) 木田幸雄、(埼玉県) 杉浦亮一、(愛知県) 今村忠一、(静岡県) 田中貞次郎、(新潟県) 河内辰男、(大阪府) 阿部清、(兵庫県) 谷亮清、(山口県) 佐々部謙一、(長崎県) 松添誠、(杉並区) 野村公雄、(渋谷区) 松尾保、(世田谷区) 山本重二、(岩手県) 佐々木俊雄、(秋田県) 山田耕一、(群馬県) 小林正雄、(神奈川県) 矢島好水、(静岡県) 鈴木旭、(三川県) 常盤利弘、(新潟県) 丸山英一、(兵庫県) 有馬貞三、(奈良県) 平井保三、(長崎県) 木下芳夫、(文京区) 古谷直行、(渋谷区) 三島豊、(大田区) 河野基子、

見舞金贈呈者(火災)
(北海道) 高橋常保、(秋田県) 小林昭雄、(秋田県) 小林定義、(栃木県) 長竹喜三郎、(富山県) 米田祐弘、(富山県) 奥川龍治、(新宿区) 矢内良徳、(秋田県) 小林作雄、(秋田県) 本間要作、(秋田県) 神成一郎、(千葉県) 高梨卯平、(富山県) 赤田三三郎、(新宿区) 矢内良俊、五、昭和三十一年二月二十四日母校内において本年度卒業生の人会歓迎会を開催した。

六、昭和三十一年三月二十五日母校卒業証書授与式に際して在学中業に精勵し臨実習成績優秀なる北村晴彦、宇佐美雅弘、杉村孝、松本功、四君に同窓会賞(賞状及び賞牌)を母校に寄託して授与した。

七、昭和三十一年十一月三日第六拾二回總會において会員鶴養弘君の論文變化ソーダーおよび酸性ソーダー塗布による珪酸質表面の變化に関する電子顕微鏡的研究と題する論文は歯科医学の進歩に寄与すること特に大なるものあるを認め血脇賞(賞状、賞牌、賞金)を授与し其功績を表彰した。

八、本年度内において会報六回(自第四十六号至第五十一号)発行し全会員に配布した。

九、例会、總會、開催毎に歯科器械材料等の展示、即売会を開催した。

昭和三十一年度東京歯科大学同窓会歳入歳出予算決算比表
自昭和三十一年一月一日 至昭和三十一年十二月三十一日
幹事 井上真 齊藤亮治 鈴木貞一

科 目 歳 入 予 算 決 算 (増比・減)

維持費 二、五〇、〇〇〇 一、八三、八五〇 四一、一五〇
雑収入 五〇、〇〇〇 六〇、五〇〇 一〇、五〇〇
雑収入 五、〇〇〇 一、一八、六四五 一、一三、六四八
雑収入 三〇〇、〇〇〇 一八三、一八四 一、一六、八一六

雑収入 三〇〇、〇〇〇 一八三、一八四 一、一六、八一六

雑収入 三〇〇、〇〇〇 一八三、一八四 一、一六、八一六

雑収入 三〇〇、〇〇〇 一八三、一八四 一、一六、八一六

母校大学院設置に関する

その後の状況

昨年十一月に提出した本学の大学院設置認可申請書については目下大学院設置審議会等関係方面において審査が行われており、来る二月下旬頃実地調査が行われるものと予想され、最終決定は恐らく三月下旬と思われる。

この実地調査に対して着々整備を整え当日の万遍漏なきを期している。現在既に、新館の建築はほぼ完成に近く、目下内部構造の仕上げにかかっており、本館内部の模様替え塗装等が活潑に行われている。

なお、新館に設置す可き、機械器具等の搬入も開始され、学内は挙げて、大学院誕生前のたぐましいいぶきがみなぎっている。

溝上教授元気で帰国

去年九月三日、松宮教授、田熊助教授と共に、空路旅立たれた溝上喜久男教授は、松宮、田熊両先生とロームで分け、欧米視察旅行を三ヶ月



半に亘り続けられ、十二月十四日午前九時三十五分羽田着の日航機で帰国された。元気に日越けされた先生は笑顔をほころばせて、出向えの人々に手に振られた。

御出迎えの御家族と一緒に、学長以下歓迎の教職員、同窓の人々に感謝の挨拶を述べられ、母校に向い、帰校後、生先を囲んで祝盃が挙げられた。

帰朝の挨拶

溝上喜久男

私儀

昨秋学命により欧米の歯科大学院視察並にロームにて開催の第十二回国際歯科医学会議に出席のため外遊いたしました。その折りは諸兄の盛大なる御歓送を賜り、使命遂行の意気に燃え旅程の第一号をロームへと出発いたしました。ロームに於ける会

議終了後、欧米十二ヶ国歯科大学三十二校を歴訪し、大いに見聞をひろめ意義深き三ヶ月半に亘る旅を終えて、去る十二月十四日無事帰朝いたしました。

茲に全国同窓各位に右帰朝の御挨拶を申し上げるとともに、各位が寄せられた格別なる御支援御厚情に対し深甚なる感謝の意を表します。

三先生名誉教授の称号を

堀江鉦一教授、矢崎正方教授、及び佐藤重一教授は、昨年十一月五日の合同教授会に於て、名誉教授の称号を贈られた。

竹内光春講師教授に決定

本学、口腔衛生学担当の竹内光春講師は、「母校昭和十二年卒」文部事務官として、長く学童体位向上に尽力して居られたが、今回四月一日付で、口腔衛生学担当の専任教授として就任されることに決定した。

市川病院 同窓、学生割引規定決定す

母校市川病院は、増築拡充が行われ、総合病院として力強く発足しつつある。母校に於いては、従来より学内教職員、在学生、同窓に対しては歯療費負担軽減の意味から割引規定があるが、改めて左の如く決定した。

診療割引規定、左の通り。

同窓会員及家族で保険加入者は初診時負担金二割引、診療入院料負担金の二割引、保険未加入者は、初診料、診療入院料共に保険点数扱いとし特室差額、付添人の食事は両者共に割引、保険給付外の高貴薬等の使用の際は慣行料金の二割引となっている。

計 出 二六〇、五〇〇

二、二〇一、一八二 一、二四、一四八 五二七、九六六

共済基金積立 一、二五、〇〇〇

名簿発行費積立 二五〇、〇〇〇

九〇五、二五〇 二一九、七五〇

血脇賞基金積立 五〇〇、〇〇〇

五〇〇、〇〇〇 四六六、一五〇

事業費 五五〇、〇〇〇

五〇〇、〇〇〇 四六六、一五〇

支部交付手数料 二二五、〇〇〇

二二五、〇〇〇 四七、六六五

要費 四四〇、〇〇〇

四四〇、〇〇〇 四〇、〇〇〇

与費 一〇〇、〇〇〇

一〇〇、〇〇〇 二、三、九六二

計備費 五〇〇、〇〇〇

五〇〇、〇〇〇 三、三六〇

計 費 九〇〇、〇〇〇

九〇〇、〇〇〇 四六、二二六 四八四、六六〇

昭和三十一年度基金会計報告

自昭和三十一年 一月 一日 至昭和三十一年十二月三十一日

幹事 井上 真 斎藤亮治 鈴木貞一

収入 二、二七三、〇一一

内 訳 二、一七一、八五七

三、〇〇〇

九八、一五四

支出 二、〇〇〇

内 訳 二、〇〇〇

差引残高 二、二五〇、〇一一

内 訳 七三七、九七一

一、二、〇四〇

五〇〇、〇〇〇

〇〇〇、〇〇〇

三、〇〇〇

神成一郎、貸付(授業料)

三井銀行普通貯金

日本相互銀行普通貯金

定期貯金

三菱銀行定期預金 (以下次号)

鹿島俊雄氏、次期参議院議員候補に推薦さる

本会幹事、日歯専務理事の鹿島俊雄氏は、去る一月二十六日開催された日本歯科医師会代議員、都道府県歯科医師会会長合同協議会に於いて、藤木登氏（神奈川県）の提議により、同氏多年の歯界に対する努力に対し、満場一致の感謝決議を受けられ、続いて開催された日本歯科医師政治連盟全国理事会において清水盛樹氏の動議により、次期全国区参議院議院公認推薦候補に推薦され、これまた満場一致で決議された。

小椋善男氏

名譽村民に

本会顧問、日本歯科医師会会長小椋善男氏は、長野県下伊那郡生田村の出身であるが、若山牧水に師事した。

一月十二日を意義あらしめよ

本会にとっては忘れてはならない吉日である。昔は日本国の紀元節の翌日という訳で連日の祝賀気分が醸されたものであった。敗戦を機として国を築めた記念日は姿を消して終つて、唯、二月十二日をなんとなく休養するといったのが、本学の今の創立記念日ではなからうか。これで良いものであろうか。但し、昭和三十三年の二月十二日に意義ある地鎮祭が行われた。併し、これは毎年という訳にはゆかない。尚、全学の教職員学生が参加したのではなかったそれで、これからは、一、年中行事として意義あることを

れ敬人として既に令名高く、先年故郷の同村小学校々庭に

「白妙のアルプス連峰視野にあり、われ立つ所ふる里のたを」と云う歌碑が立てられてある。この歌碑も全村挙げて戸別に掘金し天然石に刻まれた先生自筆のものである

昨年十一月文化の日に新たに村条令が制定され、村議会満場一致を以て同村名譽村民第一号に推薦せられた訳である。謹祝

長屋弘氏、明治の榮譽

（明治二年卒）

名古屋市長在任の同氏は、昨年十月市民の公衆衛生組織活動の推進力となった功績に対し、日本公衆衛生協会主催の第一回公衆衛生大会に於いて、榮ある厚生大臣表彰を受けられた。同氏は母校卒業後二年間欧米に留

松井隆弘

したい。

国が文化の日に色々の行事を展開するように、本学に於いても本学の創立に関する企てをする。

即ち勤続者、勤勉者に対する全学的表彰、感謝。興学精神の振興企画などである。大学を益々発展させるには如何にすべきか。大学の発展のために我が一生を費して悔ゆるところなしというところまでゆきたい。毎年の一応のけじめを、本学としてこの日にトそうというのである。如何なものでしょうか。全国の同窓各位も亦、大いに一翼を担って頂き同窓会を通じて、大学として発展に

学し公衆衛生を研究され、開業のかたわら、十年間愛知歯会々長、日歯会理事等を歴任、現在は名古屋市長、同校委員長、同保健委員会会長、同学校歯科医会長等の公職にあり、去る二十九年にも学校衛生四十年の功勞者として文部大臣表彰もうけられている。謹祝

出羽卓次郎氏、昭和の表彰さる

（昭和三年卒）

母校出身で驍手の免許を持つ、変り種とも云うべき同氏は、千葉県成田市南三里塚東牧場主として活躍され、昨年十一月三日文化の日に鎌倉市長から衛生功勞者として表彰された。謹祝

寄与された各位に、表彰、感謝の熱意を呈するのである。金がかかれば同窓会報上に、御芳名を活字にして全同窓関係各位に周知して頂き、共に謝意を表するといふのもよいではなからうか。時には校友会、同窓会学校共催で半日位の娯楽大会も面白いのではないでしょうか。即ち学校や同窓会は表彰式を学生会は卒業生送別会を、そしてそのあとで、音楽、映画、劇、講演、落語等々と娯楽、慰勞の時間を過そうというのである。大先輩の回顧談なども意義があり興味があると思う。要は皆、一家族なのである。水道橋伝統の気風を振興し、独得の名譽ある学風を益々たかめたいものである。

西条征男助教授 重なるお芽出度



母校保存学教室に、杉山不二、関根永滋両教授の指導の下に、研鑽を重ねている西条征男助教授は去る十二月四日かねて神戸医大に提出中の学位論文が通過し、続いて本年一月十四日、芽出度く華燭の盛典を挙げられた。

新婦は、本会々員平塚市歯科医師会長、星谷光雄氏（昭和五年卒）の令嬢光子様で白百合高女卒。福島学長の御媒酌の下に盛大な結婚式典と相成った次第である。

校内挙って羨望に堪えないところである。謹んで祝意を表し、前途の御多幸を御祈りする次第である。同君の学位受領に対し永年同君を直接指導された関根教授より、左の一文が昨年十二月届けられた。

予てから神戸医科大学に提出中の学位請求論文一種々なる抗菌生物質を配伍せる水酸化カルシウムを以てせる生活菌随切断法に関する臨牀病理学的研究が去る十二月四日同大

学教授会において審査の結果、満場一致を以て、通過したことは、御同慶に耐えない。茲に謹んで、祝意を表する次第である。

同君は昭和三年、徳島県鳴門市に

開業の同窓西条良征氏の二男として呱呱の声を挙げ、爾來、極めて健康に、模範的学徒として成長、昭和十九年、母校に入学し、優秀な成績を以て、廿三年卒業し引き続き保存学教室に残られ、去る昭和卅二年助教授に昇進され、今日に至った。その間における公私の生活に常に苦樂を供してきた小生に取っては、今日の同君の榮譽は当然であり、その実力からすればむしろ遅きに失したと固く信じている。教室員としては入室以来、文字通り孜孜として精勵、学生の指導教育並びに研究のためには、その他の一切を放擲し、今日に至った。同君の実力に対しては学内のみならず学外が挙って認めるところである。論文通過を耳にしても恐らく同君は泰然自若たるものがあるだろう。今後、益々奮勵努力、歯科界のために、そして保存歯科学のために、貢献されんことを望むと同時にそれにより大いに母校の名譽を發揮されんことを念願する次第である。因みに同君の令兄征二氏は、目下郷里鳴門市において、尊父を助けて開業に従事され、同君は、学位獲得後も引きつづき新進鋭鋭の若手助教授として、また学徒徒として大いに活躍される由、われわれとして、同君の将来に期待するところは極めて大きい。 剩え、聴くところによれば、近く良縁を得て、新家庭を建設し、母校の助教授として万全の態勢を築きあげられるが、重ねて同君の爲、心から祝福するものである。好漢の自重自愛を心から祈ってやまない。

学位受領者紹介

煙 孝 肇君



新博士煙君は富山県出身で本年五十二才。昭和三年母校を卒業し、鳥取市の大先輩、故竹内勝蔵氏の診療所に二年勤務し、同地で開業された。

十一年暮帰京して目黒駅に近い伝研前に診療所を移転された。終戦前罹災したが充員召集され、大湊海軍病院の歯科室勤務を命ぜられ、終戦後同病院は国立大湊病院と改称され更に国立大湊療養所と名称が三転した二十四年秋同病院を辞し、公立大館病院歯科医長に就任し診療のかたはら研究に専事しておられた。二十六



中野三郎君

新博士中野君は明治四十三年の生れで横浜の人。母校を四年卒業し、当時私のいた遠藤外科に入局、口腔外科を専攻すること五年。十二年満鉄病院に奉職、十七年白城子病院歯科医長を最後として、奥村、福島両先生のお世話で北京大学医学部に転じ同大学に併設された歯科医学系の副教授として、系長たる私および柿原教授とトリオになって奮闘された。

研究に一層専念するため、三十年春上京し、当時佐藤清一郎博士が院長をしておられた日本通運東京病院の歯科部長に就任、引き続き米沢教授の御指導を得て、学位論文の完成に精進せられた。去る十月七日の金大医学部教授会にて、主査谷友次教授の下で満場一致論文が通過し、越えて十一月十二日付案ある学位記が授与された。新博士は柔道四段の猛者で、長鳴鶴飼育では一家をなしておられる。月子夫人との間に嗣子のないのが玉にキズであろう。令兄秀雄博士は国際セイルカ病院耳鼻科部長

として名声がある。謹祝 (大井清記)

○主論文(一編) クロアカ属桿菌に關する免疫学的研究(第一—第一報) 十全学会雑誌五九卷七号掲載 参考論文(七編) 略

慶祝。(小林一郎記)

○主論文(一編)

歯芽発生過程に於ける組織化学研究(十全学会雑誌五九卷第三号掲載) 参考論文(略)

鈴木秋雄君



鈴木秋雄君

研究面の末世の世に、究学の苦しみと真髓を身につけた数少ない人の中に君を数えたい。氏は昭和十七年母校卒業後、研学の道を歩み、頤学慶大末吉教授門下生として、女医大村瀬教授、令兄鈴木三郎博士等のあゆんだ道と同じ道を十年の歳月をかけて歩みつけ、今日慶大教授会で万場一致通過という快報を手にした訳である。その間母校米沢教授をはじめ親友、知人の声援は勿論令夫人のもの等しくみとめる所である。今二男一女の主として、清水市で盛業とか、しかも研究をつづけておるといふ。御多幸を祈っております。

○主論文(肝脂肪量の消長時における生化学的及組織学的観察) 二編(肝臓脂肪量に及ぼす自律神経の影響について)(上条雅彦記)

大平実君



オオヒラ・ミノル君は、本籍地の長崎県島原中学出身で、昭和十二年の

母校卒。徳山海軍共組を経て傷痍軍人京都療養所歯科に転任。終戦の年に慈大付属医専に編入され、二年後

の第一回医師国家試験に見事合格。

戦後同所は国立京都療養所と改称、

今度は結核担当の医官として引続き勤務されていたが、昭和三十年春京都府中郡にある峰山町保健所長に榮転されて今日に及んでいる。勤務のかたわら昭和十五年夏京大微生物学教室で研究を開始せられ、ついで同教室に關係ある結核研究所の研究員に転じさらに非常勤助手となつて今日に及んでおられる。すでに終戦までに海浜を使用する微量結核菌証明法の論文を完成されたのであるが、戦後更に構想を新たに学位論文を完成されたのは昭和二十三年秋であった。かつ、臓器内初期微布から見た結核免疫及びアレルギーの実験的研究(二編)と自然界ミコプラクテリアに關する研究(二編)其他を参考論文に追加せられ研究開始以来実に十六年を経た昨年一月正式に米村康教授の許に論文提出せられた。陽春四月の京大医学部教授会にて満場一致論文通過し、越えて七月二日付案ある学位記が授与された。謹祝。(米沢和一記)

○主論文 唾液の結核菌増殖阻止作用に關する研究(三編)、『結核研究』四卷一—三合併号掲載(昭和二三、一〇) 参考論文(八編) 略

長井義博君

ナガイ・ヨシヒロ君は満二十九才であり昭和二十四年の母校卒業生。現住所は本籍地に接した港区芝新橋六六〇で、程近い芝新橋一ノ二〇是第一ビルにて母校同窓の長老たる巖父

頼逸氏と歯科診療所を經營して今日に及んでおられる。感ずる所あつて、二十八春医歯大見学生、同年四月医学部専攻生となり微生物学教室に當時の主任・相沢教授指導の下、免疫学の研究に没頭せられた。

途中、主任が清水教授に代つたが、毎日の診療を早く切上げては研究室に通われた甲斐あつてか昨夏論文提出までに漕ぎつけられ去る十一月六日の同大学教授会で、主査清水教授の下、満場一致論文通過し、越えて十二月十三日付案ある学位記が授与された。両手に花とでもいおうか、新博士は去る十一月二十三日に同じく同窓の長老・春原定栄氏令嬢延江さんと華潤の曲を挙げられた。新橋第一ホテルの御披露の盛況には私も招かれ、母校代表の斎藤教授と同席した。因みにご令妹幸子さんは、母校二十七年卒で母校補綴部元助教・矢島忠夫君に嫁しておられる。謹祝。(米沢和一記)

○主論文(一編) 阻止帯現象に關する研究(鶏赤血球を用いての実験) 日本衛生学雑誌十二卷一号掲載 参考論文(略)

東大歯山岳部O・B杖痕クラブ 発哺にユツテ改築成る

昭和十四年志賀琴京発哺温泉の一角に建設された発哺ユツテは、地盤の軟弱から例斜、破損をうけていたが、クラブ員一同の熱意により今秋数米上の台地に移転改築し十一月二十三日華々しく落成式を挙行今冬のスキーシーズンを待っている。



各地同窓のうごき

宮城県支部

旧臘十五日母校福島学長並びに西村同窓会頭の両先生を仙台にお迎えして御就任祝賀の会を開いた。

幕も迫った東北の寒さは雪こそなかったが、可なり酷しいものであった。両先生が元氣な姿を現すやホームに待つ会員殊に久振りにお会する面々は、嬉しさに涙ぐんでさえる。

「ヤア、ヤア」のお挨拶もそこそこ眼前仙台ホテルで少額、両先生は一風呂を浴びサッパリとした御氣持になられ会場「八百条」に向われる。もうそこには、泊りがけで来た遠方組数人も交え三十余名の会員が集って居る。近來にない大勢だ。

式場の壇上を見れば、バックには金色のT・D・Cの校章が国旗と並んで輝いて居る、その前に大きな椅子が二つ並んで設けられている。

やがて急襲の拍手裡に両博士がドツカと腰を下す、重厚な学長、温厚な会頭の顔だ。「今こそ我が師に見えん」と会員の顔は高潮した。

会は五時から始まり先づ梅津支部長の丁寧なる挨拶の後両先生へ記念品の贈呈、元老遠藤辰三君の祝辞があった後、万場の拍手に迎えられて学長福島先生が母校の現況特に大学院の進捗状況を詳しく話され一層の協力を希まれた。

次に西村先生が現在居られる職につかれた当時のいきさつ又母校同窓会の為め、渾身の努力を奮うと言わ

れ、両先生の御話には一同深く感銘し我々会員も母校の為め尽す覚悟を新にした。

なお当時は、当支部会員中既に還暦に達した諸先輩十九名の還暦祝賀会を併せて催した。

梅津支部長の御祝いの辞があつてそれぞれ記念品を贈つて祝つたが代表して奥歯科医師会会長たる菅野修君が感激の挨拶を述べ目度く式は終了。

愈々祝宴に移り、懸田初男君の乾盃に始められ、仙台一流美女十数名が酒間をりもち、飲む程に頃はよし姐さん方が御自慢の名物「さんさ時雨」など数番を踊る。両先生もこれはいとお賞めになる。

後は始どオールメンバーが隠芸を披露し遺憾なく水道橋精神を発揮し時の移るのも知らず大いに氣勢を挙げたが最後に校歌の斉唱母校万才、両先生の万才を叫んで延々四時間に渉る感激の会は漸く終った。時に九時。当夜十一時発「おいらせ」で御帰りになる両先生を仙台駅に御送り申上げ、御無事を祈り御別れを惜んだ。なお同日午前奥歯科医師会の招聘で「奥歯科漫談について」の名講演をされた母校教授木村吉太郎氏もこの祝賀会に参加された。

出席会員名(到着順)
(市内会員) 三宅重吉、武田善四郎、清野茂、千葉機、下田一郎、山村新之助、角田幸助、花岡十之丞、奥田美直、奥田敏直、横田由之助、阿部

久語、阿部順吉、小山咲二、菅野修、梅津義男、丸森源七郎、小野寺虎太、遠藤辰三、懸田初男、岡部衛、(郡部会員) 菅原勝右エ門、梅原政雄、花岡広、水野孝四郎、秋元重雄、鈴木幹一郎、佐々木栄子、佐藤一郎、佐藤良三、鈴木惣治郎、鈴木謙、高田直秀、橋高吉人(以上三四名)

遠藤辰三、小林浩、武田善四郎、菅野修、山村新之助、角田幸助、阿部久語、奥田美直、佐藤一郎、鈴木惣治郎、下田隆、今津元、横山省三、吉田鶴、岩淵文吾、江幡好雄、高橋辰二郎、大幸丹三郎、加藤茂

札幌支部

今回改選期に当り現在までの支部長林武夫氏はその任を辞し、役員は左の如く決定した。

(支部長) 石井次三、(副支部長) 末広良一、(庶務) 小林寛一、(原辰己、(会計) 果山武雄、星井博、(厚生) 田村元、武田俊信、宮前利八郎

図書館からのおねがい

大学院の建設事業も、いよいよ完了に近づきつつあり二月中旬には、設置認可のための審査を受ける段階に到達しました。

ところで、その審査に際しては、図書館の専門学術書の蔵書数が特に問題になります。幸いに数で、本学には、多年の苦心が効果を発揮して、現在、大学院の設置基準を、かなり上廻るだけの蔵書があります。しかし今後、図書が対する要望は、さらに飛躍的に増大するものと思われま

す。そこで甚だ、勝手なおねがいですがこの際、同窓各位の絶大なる御

同情と御協力とによってとお手持ちの不要図書を、御寄贈賜りたく、この段謹んで御ねがいます。御寄贈の図書は特に丁寧に取り扱ひ、御寄贈者の御芳名を書頭に明示して、将又学習用として、永く活用させていただきます。どうぞよろしくおねがいます。

(図書館長 関根 永滋)

逝去会員

大坪 正吾氏 三、二一
清水 忠治氏 三、二一、七
佐藤 義一氏 三、二一
四方 文吉氏 三、二一、九
(名誉会員) 島根県 松本 保雄氏 三、二一、二
杉野 重雄氏 三、二一、三
田中 重雄氏 三、二一、三
内藤 継子氏 三、二一、三
大須賀 福氏 三、二一、三
中里大三郎氏 三、二一、三
青森県 神奈川県 大田区 中央区

神永幾久雄君の死を悼む

大正二年卒 級友 飯塚喜四郎

僕が無二の親友神永幾久雄君が昭和三十二年二月二十四日午前四時忽然としてこの世を去った、行年六十才である。

今日午前九時神永君の宅から電話電報で突然君の死が報ぜられ全く愕然とした。

神永君と僕との交遊は明治四十三年東園に入学以来のことである、始めは共に同郷の栃木県出身という関係からである。その後第二学年以来相共にクラスの総代を勤める様になつてから一層親交の度を増した。神永君は頭脳明晰の秀才型。僕はヤンチャの凡才型。これがどう云うものか不思議に気が会つて無二の親

友になつたのであるから世の中には不思議である。神永君は酒もタバコもごく少量やっていたが僕は酒はホンの一口、タバコは全くだめだ、一番似ているのは学生時代に共に異性と没交渉であった事である。

卒業後神永君は郷里の佐野に開業し僕は朝鮮アメリカ等の生活を経て丸ビルに落ちついたのであるがその間常に交遊を厚くした。

神永君は度々僕のオフィスや茅屋を訪ねてくれ、又僕も神永君の美事な数百坪の邸宅と立派なオフィスを訪ねて親しくその成功振りを祝福した。

神永君の長男は昭和十四年に東園を卒業され、今年四十才の働き盛りであるから後顧の憂は全くない、神永君は果報者である。

神永君の一生はその性格が示す様に真面目そのものであった。その温厚篤実さには常に啓発されて来た、僕は神永君を親友に持ったことはこの上もなく幸福であつた。

神永君との交遊は実に四十八年に及ぶ、随つてその思い出は汲めども尽きぬものがある、一書き綴れば原稿用紙数百枚に及ぶであろう今回は唯一言君の御冥福を祈つて拙筆をす。一君冥せよ。(三三、一、六)

現住所変更

上山 悦郎 豊島区池袋二ノ九八八
渡辺善三郎 三条市日吉町
(旧性吉田)
並木 俊雄 三鷹市井之頭三三三
伊藤 正彦 札幌市南二条西五丁目
渡辺益太郎 小森町
依田 秀雄 五泉市吉沢四ノ四六〇
北河 成規 甲府市住吉本町九一
彦根市棋平町

クラス会便り

堅 久 会

卒業十六年目の総会を十一月三日開催しました。当日の出席者は前原佐藤(知)、斎藤(孝)清水(由)木村(哲)、栗田、高見、山崎(敦)大野、岡野、小出、石井和、草谷木村(亮)、百束、内山、早川、高橋の十八名でした。

当日の総会で、年度会費を昭和三十一年分から三〇〇円に値上げを決めました。

次年度の幹事は、前原、佐藤(知)草谷、岡野の四君です。その外に在校者として、木村(亮)、高橋が総会当日の控室の準備係を、

椰子の実を発行すべく準備中です。会費未納の方は佐藤知也君宛御送金願います。(高橋記)

一 期 会

拝啓

寒さも愈々本格的になって参りましたが、いかがお過して御座居ますか。東京在住の我々には、北海道の諸兄の厳寒に耐えての御活躍や、又南国九州での過ぎし猛暑下での御健闘等とを想像致しますとき、東京の恵まれた気候をあらためて感得すると共に、地方におかれて励んでおられる諸兄に、深く敬意を表す次第であります。

さて、級雑誌「一期会」より、創

刊号」も既にお手もとに到着いたしましたことと存じますが、編集の未熟から、御期待にそえかねた内容に終始致しましたことを、深く御詫び申し上げます。どうぞ今後のために、何なりと御意見をお寄せいただければ、雑誌のために、又、級のために甚だ幸に在じます。

昭和三十一年度の級会は、一応級雑誌に記載致しました級会々則にのっとりまして、新しい構成のもとに一地方支部会の型で、「第五回一期会関東地方会」という名目によりまして、去る十一月三日、東京神田スズラン通りの「盧山菜館(中華料理店)」において開催致し、三十四名の参加者を迎え、誠に盛会そのもので御座居ました。今回の級会は、会則制定後はじめてのことと、その運営がいささか面倒にも思われましたが、蓋をあけてみますと、なかなか意義深い集りで御座居りました。

殊に今回は会員各位の「一期会」に対する、絶々の意見をきかせていただくという思考のもとに、テープレコーダーを準備致し、各位の御意見を録音、後日発行予定の「一期会」より、第二号」に集録致そうとしました。誠に今迄かつてない程の多数の人々の熱の入った建設的なお考えを、予定した時間のテープの長さをオーバーしてまでうけたまわることができましたことは、大成功であると我々一同深くよろこん

でおります。

会は午後七時半頃一先ずおひらきとなりましたが、久しぶりに会う人々に、又、三々五々、第二第三の会には参じて行ったよう御座居ます。かような次第で、やがて「一期会」より、第二号」が編集されようとしておりますので、どうぞ、この際近況、御意見等よろしくおきかせ下さい。又、各地方部でも、支部長を中心として、盛大に一期会支部会を開かれたものと存じますが、それらの様子を併せてお知らせいただきたく、楽しみに原稿をお待ち致しております。

尚、明年、又は明後年には関西地方で盛大な集りをいたしたいとの御意見が今回の関東地方会で多数御座居ましたのでこれに對しましても種々御考えをおよせ願います。

では益々一期会と共に諸兄の御発展を心からお祈り致しますと同時に、今後ともより一層の御協力をお願い致します。

敬具

昭和卅二年十二月八日

一期会役員一同

一期会各位殿

(一期会関東地方会出席者)

西山、西村、岩井、莊、安藤、片倉神尾、睦森、関根、中川、阿部、津島、鮫島、福田、今井、多胡、田口大鶴、北原、佐々木、香山、安江、兵藤、見明、野村、倉繁、斎藤、原羽賀、森、田所、石塚、中村、宝田以上

十 六 会



十六会の諸兄アジア風邪旋風下各地各様に御健闘の事と推察して居ります。

去る十一月三日、恒例に依りクラス会を上野忍池畔水光閣に於て左記メンバー(三十四名)出席和気霽々の中に開催、会員の発展を祝し会ひました大変遅くなりしましたが(二年)十六会誌が出来上り、近日中に御手許へお届け致します。大分年次のずれがありますが当時は回順して然るべく御高説上さい。

出席メンバー

飯田、伊藤(北海道)、福本、森田鈴木(保)、児玉、大野、増田、前川篠原、佐藤(章)、大川、市川、村田鈴木、鈴木(敬)、河村、嶋村、宇梶坂、橋本、城所、山根、登内、北詰鹿野(悦)、吾妻、宮坂、岡田、増村徳植、武田、鈴木(貞)以上

昭 久 会

菊の香薫る十一月三日午後五時歯科界の中堅を以て任ずる我々は母

校裏「あびす」に勢揃いした。
遠くは広谷(大阪)加藤(名古屋)佐藤(平)近きは黒崎、菊地(貞)谷越、中村喜小川(知)草柳、相沢、安達(直)田村(正)後藤、田中(文)鈴木(哲)川手、松崎(強)安藤(喜)鈴木(国)の強者計廿名、互に久闊を叙し、健康を祝して懇談一しきり、安達喜幹事から会務及び会計報告があり、万雷の拍手で、その労を稿った。次に中村喜之助君の学位論文通過が披露されて祝賀の拍手が爆発した。
此の日の中心議題は、来年三月廿一、廿二日の京都に於ける卒業廿周年記念臨時総会の件であった。



広谷大会準備委員長は、烈々たる語調で近畿地区全会員十一名が準備委員となり既に数回の会合を経て鋭意準備中であるから関東方面からは是非、新学長を擁して大挙して参加して戴きたいと要望があり、之に對して一同大いに賛意を表し、少くとも本日の出席者は全員参加と決定して、意気軒昂たるものがあつた。ついで懇親会に移るやすきや鍋をつつきながら大いにメートルをあげれ

ば、興趣上り、隠し雲の敷々が飛び出し、爆笑、時の移るを知らず、かくして再会を約して、三々伍々、散食した時は既に九時を廻っていた。
(鈴木国記)

第六十二回

卒業生の皆様へ

皆様には益々御健にて診療に研究に御専念の事と拝察致します。

さて、私達六十二期生も卒業後始めてのクラス会を、去る十一月三日東京観光にて開催し、六十三名の出席者をもって、盛大裡に無事散会。

尚、当日左記の事項が決りましたのでお知らせ致します。

第六十二回卒業生同窓会

一、名称 未定
一、役員 会長、大沢三郎、副会長、関口春也、会計、伊藤英之、同、吉本周作、庶務、石川、幹事、成毛二郎、同、今西孝博、同、二宮雪夫、同、山本陽、同、竹内太刀夫

役員任期、二ヶ年
(照役員の任期は昭和三十三年十一月三日迄)

一、連絡 東園口腔外科学教室内

一、同窓会費 年額、金二百円也

会の名称が未だ決りませんので皆様から募集したいと思ひます。よい名前がありましたら、御一報願ひます。

四海会クラス会

かねて御案内申しておきましたクラス会の総会を左記の如く開催致しましたので御通知申し上げます。

十一月三日 午後五時三十分

於 武蔵屋

小坂君司会で開催
○山本委員長挨拶庶務報告

○来年卒業二五周年を迎えるに際しての記念行事は在京委員に一任された、

○委員長任期満了につき改選満場一致賛成再選された。

○山本委員長挨拶

クラス会のため設として、微力乍う協力する積りです。諸兄の御支援と御援助をお願い致します。

○鹿島俊雄君参議員立候補後援会を次の如く決定しました。

当夜出席数氏の発言動議により、鹿島君の歯科医政面に於ける活躍と、来るべき参議院戦出馬を前提とする、クラス後援会を結成し以て同君の為強力する支援を致す事を満場一致を以て決議致しました。

推進方法については凡て山本委員長一任と決定しました。級友鹿島君はまことに尊敬に価する人物で深い経験と新しい智識とを以て堂々と論陣を張らせてみたいと存じます。何とぞよろしくお願い申し上げます。

昭和七年卒業以来我々の会も二十五周年を迎えることになった。昨年の総会で何か盛大にやろうかと云う意見が出て色々考えてみたが結局何かと難もが難用に追われこれという画期的なものも出来なかったが、会員諸兄のアンケートにより多数の方々が東京での会開催を希望して居られたので、佐藤幹事長の努力によって村居君の協力を得て近年にない盛大な総会を開くことが出来たのは我々三辰会にとって何ともいえない喜びであった。

十一月三日文化の日は例年にない暖い日で秋空高く晴れわたり椿山荘の宏大な庭園での午後の一刻は、終戦来十二年目やっと落ついて来た我々の気持ちに何かびたりして来たようだ。開会二時間前位に集合して日光に面したテニスを囲んでの団らんは過ぎし二十五年の追想、在学時代の話、家族の話、将来の話等いくら時間があってもつきないものである。ミラー・ピンセットをもって終日室内に籠る我々の生活から午後の一刻を強い秋の日を全身に浴びての歓談、こんな楽しいことは稀なことである。暮色迫るころ庭園を散策して三々伍々、会場に集り村居君の尽力で静かな庭の一隅でのジギスカン料理、ビールでの乾杯には全会員の思いがこもっていたことであろう。

総会では先づ第一に緊急動議として諸兄においた福災された山口弘君の御見舞の件は全員の賛同を得て一口五百円以上の見舞金を会員有志諸兄より頂戴(出席会員からは当日頂きました)として、一括して贈呈することに決った。次に今迄の年会費二百円を五百円に増額して会の会計状態の赤字を何とか克服して、ユニースの発行、その他の企画を円滑に遂行することを計る案が全会員の賛成で決定した。最後にまだ決っていなかった幹事の人選について佐藤幹事長の希望により、木本、原島の両君と小生とに決った。以上の和気あふましい気持ちよく出席会員の和気あふましいのうちに進められたクラス会であり、それだけの思いを残し、次回を約して三辰会全員の諸君の健康を祝し、午後六時頃散会した、今後我々の三辰会はますます、この気持ちを強くもって会の未永く続くことを願うものである。

どうか地方の諸兄も是非何にかの機会に出席されんことを切望する。尚当日出席会員は次の諸氏である。

佐藤正、宮原、村居、滝、関根、関口、木本、大久保(夫)、石井(一男)、城谷、関、加藤(孝隆)、中田、熊野、田中(勝雄)、佐藤(二)、米沢松井、近藤(昭)、穂坂、木村、清水の二十二名。出席通知を頂いてこれなかった方二名、原島、斎藤(喜久夫)の両君である。(清水記)

同窓各位御健勝の事と存じます、母校大学院建設着々と好調にて御同

力です、昭和三十三年十一月三日月例の十年会の集りは、一同元氣一杯にて、老いて益々元氣の様子を思はせるものあり、未だ未だ若いもんには負けぬという頼もしき、四月早々川口湖に一泊の清遊の件、全員賛成にて鈴木鋭二、久保田正一両君の世話で議決。京都の柳藤吉君の死去の報に味附をつけた本人より早速「俺は生きています」と御叱りの通知頂いた、厚く御詫言すると共に百まで長生きされんことを願ひます。茨城の清水東三君六月より眼底出血にて目下静養中、

三 辰 会

うべく協力する次第であります。

○記念撮影

○当夜出席者

加藤、橋本、中村(栄)、鈴木(貞)、村瀬、難波、講呂木、野上(徳彦)、小坂、増田、吉井、鈴木(伊)、高橋(謙)(小田原市、清水、河左見、長尾、鹿島、山口(重)、前島、岩谷(青森)、保坂(高田市、山島、河原(茨城県)、北野、杉本(伊豆長岡)、中道(秋田市)、中村(信)(横須賀市)山本

力です、昭和三十三年十一月三日月例の十年会の集りは、一同元氣一杯にて、老いて益々元氣の様子を思はせるものあり、未だ未だ若いもんには負けぬという頼もしき、四月早々川口湖に一泊の清遊の件、全員賛成にて鈴木鋭二、久保田正一両君の世話で議決。京都の柳藤吉君の死去の報に味附をつけた本人より早速「俺は生きています」と御叱りの通知頂いた、厚く御詫言すると共に百まで長生きされんことを願ひます。茨城の清水東三君六月より眼底出血にて目下静養中、

「今は只小便のみのライツ哉」との通知頂いた再記を祈ります、当日出席者は下段右より鈴木鋭二、佐藤泰三、竹下忠平、鈴木皓、五木田三郎、石原文博、上段右より白須賀二郎、中村正夫、飯英、玉井克依(佐藤琢泡)堀内京、久保田正一。(白須賀記)

お願ひ 去る十一月三日東園学会に出席され、会費仮領収証第十号をお持ちの方は御手数お掛け致しますが、学会会計迄御一報下さい。

十 年 会

同窓各位御健勝の事と存じます、母校大学院建設着々と好調にて御同

力です、昭和三十三年十一月三日月例の十年会の集りは、一同元氣一杯にて、老いて益々元氣の様子を思はせるものあり、未だ未だ若いもんには負けぬという頼もしき、四月早々川口湖に一泊の清遊の件、全員賛成にて鈴木鋭二、久保田正一両君の世話で議決。京都の柳藤吉君の死去の報に味附をつけた本人より早速「俺は生きています」と御叱りの通知頂いた、厚く御詫言すると共に百まで長生きされんことを願ひます。茨城の清水東三君六月より眼底出血にて目下静養中、

「今は只小便のみのライツ哉」との通知頂いた再記を祈ります、当日出席者は下段右より鈴木鋭二、佐藤泰三、竹下忠平、鈴木皓、五木田三郎、石原文博、上段右より白須賀二郎、中村正夫、飯英、玉井克依(佐藤琢泡)堀内京、久保田正一。(白須賀記)

お願ひ 去る十一月三日東園学会に出席され、会費仮領収証第十号をお持ちの方は御手数お掛け致しますが、学会会計迄御一報下さい。

十 年 会

同窓各位御健勝の事と存じます、母校大学院建設着々と好調にて御同

力です、昭和三十三年十一月三日月例の十年会の集りは、一同元氣一杯にて、老いて益々元氣の様子を思はせるものあり、未だ未だ若いもんには負けぬという頼もしき、四月早々川口湖に一泊の清遊の件、全員賛成にて鈴木鋭二、久保田正一両君の世話で議決。京都の柳藤吉君の死去の報に味附をつけた本人より早速「俺は生きています」と御叱りの通知頂いた、厚く御詫言すると共に百まで長生きされんことを願ひます。茨城の清水東三君六月より眼底出血にて目下静養中、

「今は只小便のみのライツ哉」との通知頂いた再記を祈ります、当日出席者は下段右より鈴木鋭二、佐藤泰三、竹下忠平、鈴木皓、五木田三郎、石原文博、上段右より白須賀二郎、中村正夫、飯英、玉井克依(佐藤琢泡)堀内京、久保田正一。(白須賀記)

お願ひ 去る十一月三日東園学会に出席され、会費仮領収証第十号をお持ちの方は御手数お掛け致しますが、学会会計迄御一報下さい。

十 年 会

同窓各位御健勝の事と存じます、母校大学院建設着々と好調にて御同

